

平	成	21	年	度																
喜	多	方	市	小	学	校	農	業	科	作	文	コ	ン	ク	ー	ル				

作品集



喜多方市教育委員会

巻頭言へ すばらしい と ありがとう へ



J-T生命誌研究館館長 中村 桂子

夢を見ているのではないかしら。喜多方市の小学校の子どもさんたちの農業科についての作文を読みながらそう思いました。どの文も生きものから学ぶ気持ちと生きものへの愛情が表現されていてみごとです。読んでいるうちにみなさんと同じ気持ちになり、おいしいじゃがいもやトウモロコシができた時は嬉しくなつて涙が出てきました。私たち大人は、子どもはまだ充分育っていないので大人ほど考えていないのではないか、物事がよく理解できないのではないかと思つてしまいます。それは違います。農業をやりながら自分で考え、豊かな心を育てていく様子を見て、子どもにはなんて大きな可能性があるのだらうと思いました。

喜多方市の農業科は、私が「小学校で農業を必修にできたらとてもよい教育ができる」と書いた記事を、市長が読んで下さったことがきっかけで始まりました。最初に市長のお考えを知った時はびっくりしました。本当に可能なのだろうか。半信半疑でしたが、市長を中心に、教育委員会、学校、地域、保護者、児童、すべてがみご

とに連携して、大胆に、しかも着実に成果をあげていく様子に眼を見張りながらわくわくしていました。すばらしい副読本に驚いたのも楽しい思い出です。そしてついに作文集までできたのですから、もう夢のようです。ありがとうございます。喜多方のみなさん、すばらしいことを実現なさったことに敬服します。

長い間の生きものの研究の中で、地球上にはたくさんの生きものがいること、私たち人間もその仲間であることがはっきりわかってきました。ところが最近、便利な機械が溢れた生活になり、私たちが生きものであることを忘れて暮らす人が多くなりました。生きものにとつてとても大事なことは“つながり”です。つながりを忘れると、生き生きと生きられません。それに、生物について、本や話で知識を手に入れてもつながりの大切さは本当にはわかりません。自然と接することです。それも、夏に数日間海や山へ行くというのではなく、毎日接することが大事です。その中でも農業は、自然と積極的に関わる喜び、収穫の喜び、それを仲間や家族と一緒に味わう喜びがあるので、大きな力を持っています。喜びと書きましたが、もちろんその陰にはたくさんの苦勞、そして思い通りにいかない悲しみがあります。でもそれだからこそ喜びは大きいとみなさんの作文にその気持が書いてありました。

作文の中から、すばらしい！と思った言葉を取り出そうと思って線を引き始めたら、どんどんふえて線だらけになってしまいました。書き切れません。全部読んで下さい。一人一人が自分で考え自分の中から出てきた言葉

で書いているので、その時の様子が手にとるようにわかり、その場にいるような気持ちになりました。読んだ人みんなが農業の大切さを感じると思います。どの作文からも読みとれることをいくつかあげてみます。まず、農業科が始まった時には、なぜ農業科なんてやるのかな、ちよつといやだなと思っていた人が多かったことがわかります。でも、実際やってみたら農業はいいな、大事だなと思うようになり、おじいちゃんやおばあちゃんを手伝おうという気持ちになる人も出てきましたね。拍手を送ります。それともう一つ。支援員の方たちの力にはどうしても触れなければなりません。農業の指導はもちろんですが、大人の魅力を子どもたちに体感させ、世代のつながり、地域のつながりを作りあげて下さったのもすばらしいことです。先生方、お家の方（子どもの収穫物をおいしいと言って食べることがどれだけ励みになるか）、教育委員会の方々それぞれの活躍もみごとです。もっともつと書きたいのですが余裕がないのが残念です。人の力は大きいです。喜多方市の活動が少しずつ仲間をふやし、いつか日本中の小学校へと広がるといいな。またまた夢は広がります。これから応援します。ますますよい活動をして下さい。

あいさつ

喜多方市長 山口 信也



平成十八年十一月十六日、国から構造改革特別区域として「喜多方市小学校農業教育特区」の認定を受け、平成十九年四月一日より全国ではじめて小学校に教科としての「農業科」を設置しました。喜多方市の基幹産業である農業を本格的に小学校教育に取入れる試みは、先進事例として全国の注目を集め、毎年全国各地の自治体や議会の方々をはじめ、小学校における農業活動等の研究のため大学関係者も視察に訪れています。

初年度三校ではじまった取組みも、三年目を迎えた本年度は十四校千余名の児童が取組むようになり、平成二十三年度の市内全小学校での実施に向けて、着実に拡大を図っています。

本年度新たな取組みとして「喜多方市小学校農業科作文コンクール」を実施することにしました。応募のあった子どもたちの作品からは、農業のもつ教育的効果を学校教育に生かし、子どもたちの「豊かな心」「社会性」「主体性」の育成を図ること、あるいはふるさとの基幹産業である農業を通して、子どもたちに「ふるさと喜多方を愛する心や誇りに思う心」の育成を図ることが日々成果をあげていることが強く感じられます。

これも、喜多方市小学校農業科を支えていただいている先生方や多くの地域の皆様方等のご尽力のお蔭だと深く感謝申し上げるとともに、この取組みがますます充実することを心から願い、挨拶といたします。

発刊に寄せて

喜多方市教育委員会教育長 菅井 一良



喜多方市小学校農業科も三年目を迎え、子どもたちが小学校農業科の学習にどのようなことを考えているのかを多くの方々に知っていただくために、今回作文コンクールを実施し、作品集をつくることにしました。

作品を募集したところ、八百三十六点の応募があります。驚かされました。これは、小学校農業科を学習する子どもたちの約八十三%にあたり、栽培活動を通して得た感動が子どもたち一人一人の作文を書く原動力になっていることを強く感じました。

次に作文を読んでまた驚かされました。小学校農業科の学習は、「土づくり」「種をまき」「世話」「収穫」「加工」と長期間にわたる取り組みが続きます。それを順序よく紹介し、自分の感じたことや考えたことなどを作文にまとめるということは、そう簡単なことではありません。しかし、どの作文もそれができているのです。さらに、みなさんの感性や表現力の素晴らしさ、様々なことに対する洞察力にも驚かされました。

このように、応募のあった作文は、小学校農業科を通して喜多方の子どもたちの中に「豊かな心」や「社会性」「主体性」が確実に育っているという一つの証であると考えています。

おわりに、子どもたちの作文から小学校農業科を支えてくださっている地域の方々や家族のみなさんの姿が強く感じられました。深く感謝申し上げますとともに、今後とも子どもたちの健やかな成長のためにご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

巻頭言

J T 生命誌研究館長 中村 桂子

あいさつ

喜多方市長 山口 信也

発刊に寄せて

喜多方市教育委員会教育長 菅井 一良

目次

入賞作品

【中村桂子賞】

農業科を学んで感じたこと

上三宮小学校 六年 五十嵐千彬

【喜多方市長賞】

みんなで作る農業科

慶徳小学校 四年 加藤 伶

【喜多方市教育委員会教育長賞】

農業科の学習をしてみたこと

熱塩小学校 五年 猪俣誌央里

【J A 会津いいで組合長賞】

楽しかったはじめての農業

熊倉小学校 三年 磯部 琴音

【優秀賞】

野さいを育ててわかったこと

豊川小学校 三年 江川 大智

がんばる喜び

松山小学校 四年 井上 愛

心も育つ農業科

入田付小学校 五年 若菜 美優

13 12 12 11 10 9 8 6 5 4 1

【佳作】

大豆について

松山小学校 三年 高橋 凜

農業科のべん強をしてみたこと

松山小学校 三年 福島 諒華

はじめてのお野さい作り

豊川小学校 三年 高橋 りほ

おいしいポップコーンができるまで

堂島小学校 三年 鈴木 華歩

さつまいもを育ててみて

山都第一小学校 三年 岩橋 妃奈

農作業にチャレンジ

駒形小学校 四年 木村 茉礼

大豆の育っていく様子

駒形小学校 四年 遠藤 秋乃

農業科で楽しかったこと

熱塩小学校 五年 原 里沙

私の農業体験

豊川小学校 六年 三橋 瑠香

三年間の農業科

熱塩小学校 六年 岩佐 絵夢

稲刈り体験

山都第一小学校 六年 田代 直也

協力員のみなさんから学んだこと

堂島小学校 五年 富田 夏芽

農業科で学んだこと

松山小学校 六年 斎藤 瑞樹

15 14

23 22 21 21 20 19 18 18 17 16 16 15 14

【第一次審査会通過作品】

楽しかったよケナフの紙すき	関柴小学校	三年	萩原 結菜	24
にんじんを育てた	慶徳小学校	三年	大竹 純佳	24
いろんな人に教えてもらった農業科	熱塩小学校	三年	山口クルミ	25
農業科の学習で初めて知ったこと	高郷小学校	三年	荒明 祐里	25
作物を育てる大変さ	松山小学校	四年	増田 千晴	26
サツマイモを育てた	岩月小学校	四年	生江 美有	27
思い出に残る農業科活動	入田付小学校	四年	神田 瑞紀	27
食べ物のありがたさ	関柴小学校	四年	大竹 るな	28
みんなで作る喜び	熊倉小学校	四年	一條あすか	28
しえん員さんに教えてもらったこと	熱塩小学校	四年	上野 葉希	29
野菜作り	加納小学校	四年	原 実里	30
大豆が食べられるようになるまで	堂島小学校	四年	鈴木 未来	30
農業科のたいへんさ	山都第一小学校	四年	伊藤 慧南	31
バケツ稲から学んだこと	松山小学校	五年	須藤 玲子	31
バケツ稲	松山小学校	五年	坂内 友貴	32

講評編集後記

農業の大変さ	関柴小学校	五年	大竹 そら	33
農業科を通して学んだこと	熊倉小学校	五年	磯部 実悠	33
農業科で学んだこと	熱塩小学校	五年	遠藤 里穂	34
大根を育てたこと	山都第一小学校	五年	高橋みらい	34
私の思う農業科	上三宮小学校	六年	澤田 美月	35
考えがかわった農業の学習	関柴小学校	六年	目黒 栞	35
二年間の農業学習について	豊川小学校	六年	川村 真由	35
二年目の農業科	豊川小学校	六年	佐藤 由佳	37
農業科の活動を通して	熱塩小学校	六年	上野 桂育	37
六年生での農業の思い出	山都第一小学校	六年	中村 巧	38
農業から学んだこと	山都第一小学校	六年	後藤いずみ	39

【中村桂子賞】

個人情報保護の
ため児童の写真
は削除してあり
ます。

農業科を学んで感じたこと

上三宮小学校 六年 五十嵐 千彬

「学校で農業？聞いたことないよー。」

家では農業なんてやっていないから、もちろん私は農業のことなんてまったく知りもしないし、興味がありませんでした。

そして昨年から、学校で農業科がスタート！まずは、苗作りの第一だんかい、たねまきです。私は、「たねまきなんて簡単じゃん。」と思っていたけれど、ただたねをまいて土をかぶせるだけではなく、そこに薬をやるなど苗作りの土台には、手間がかかるんだということを知りました。

そしていよいよ田植えの季節。前にまいたたねが大きくなっている姿を見ると、私は少し感動しました。田植えをしながら私は、「いいお米ができるといいなあ。」そんな気

持ちでした。私は、苗を一つ一つ植えていくたびに、農業の大変さを知りました。けれど、私は「農業って大変だけど、おもしろいんだ。」と実感しました。周りを見ればみんな仲良く、友達と一緒に楽しそうに田植えをしていました。私は「農業はみんなが笑顔になるのかな？」少しだけそう思いました。

私は、農業科を体験して、自然にふれて…。

農業はすばらしいものだと思いました。たくさんの手間をかけて、大切に、おいしく育つように。そしたら、おいしいお米ができる。けれど自然の中で育てるため、どんなハプニングがおこってもおかしくはありません。そして、それを乗りこえて育てるからこそ、おいしいお米、食材ができるんだと思います。

だからこそ、田畑が多いこの喜多方市は、じまんできる町だと思います。私は田畑が多いこの町を、いつまでも、大切にしていきたいです。

【喜多方市長賞】

個人情報保護の
ため児童の写真
は削除してあり
ます。

みんなで作る農業科

慶徳小学校 四年 加藤 伶

「えーっ！どうして学校で農業をやらなきゃいけないの・・・」正直なわたしの心の中のつぶやきでした。

私の家は農業をやっています。米を中心に作っていて、アスパラも少し出荷しています。

家で食べる野菜は、おじいちゃんとおばあちゃんで作っています。毎日、汗をいっぱいかいて、ドロだらけになって働いています。わたしは、ときどきその手伝いをします。田植えやいねかりはもちろん、じゃがいもほりやアスパラとりなどです。でも、それはちよつとした手伝いで、今回学校で自分でなえを植えたり、ジャガイモを植えたりしたのは初めてでした。かけてあったマルチに穴を開けてジャガイモを植えました。

農業科の学習をした日は、家に帰ってからおじいちゃんたちに話をして聞かせます。おじいちゃん学校での農業科はすばらしいことだと言います。でも、わすれていけないこととして、支えん員さんへの感謝やをしつこいくらいに言います。わたしたちが、田植えをする時もジャガイモを植える時も、支えん員さんがその前までの作業をしてくれているのです。わたしたちが、毎日田や畑に行って世話をすることなんて無理です。その間も、みんなの畑を見ていてくれます。作物のいのちを守っていてくれるのです。それは、本当にありがたいことです。農業は自然を相手にするので、その管理はむずかしくて、わたしたちが考えているより大変な作業だと思います。

ついこの前まで畑にあったジャガイモがポテトサラダに変身しました。みんなで育てた野菜だものおいしさに決まっています。みんなの汗と優しさで育った野菜だから、残したりなんてできません。自分たちで育てることで、野菜ができるまでがわかったし、何よりもムダにすることがなくなつたみたいです。

「うわあ、来年はどんな作物を育てて、うれしい気持ちになるんだろう・・・」今のわたしの心の中のつぶやきです。

【喜多方市教育委員会教育長賞】

個人情報保護の
ため児童の写真
は削除してあり
ます。

農業科の学習をして思ったこと

熱塩小学校 五年 猪俣 誌央里

私は農業科の時間が大好きです。農業科の時間はいろいろなことが分かるし、いろいろな話が聞けるからです。

私が農業科の学習を通して心にのこったことは、三つあります。

一つ目は協力の大切さと助け合いです。特に稲刈りの活動が心にのこっています。私は五年生なので、初めてカマを使って稲を刈りました。困っている私に、おばあちゃん

が、
「左手でよく稲をつかんで、右手で力いっぱいやるとうまく刈れるよ。」

と教えてくれました。言う通りにやってみたら、ザクツという音がして、一回で稲を刈ることができました。うれしくなりました。教え合いや協力、助け合いは大切だと

思いました。

二つ目は作物への声かけです。私たちは、生まれる前から今まで、家族に「大きくなつてね」や「元気な子に育つてね」とやさしい言葉をかけられながら生きてきました。

だから、私たちが作物のお母さんになって、やさしい言葉をかけてあげたいと思いました。それに、作物のにおいや音、様子などを観察すると、いつ芽が出たかななどが分かっています。やおもしろいです。やさしい目と声かけの大切さが分かりました。

三つ目は感謝です。私たちは、作物の実をよこどりして食べています。命をもらって私の命が育っています。作物を心をこめて育ててあげたい、そして感謝したいと思いました。

私は今、農業をする人がへっていることが、総合の学習で分かりました。私たちは、農業のよさをこれからの人たちに伝えるためにも農業の学習をしているのだということも分かりました。感謝をしながら、有機栽培のすばらしさを伝えていきたいです。だから、私たちは作物を一生けんめい育てて、農業のよさについてもっとと学習していきたいと思います。

【JA会津いいで組合長賞】

個人情報保護の
ため児童の写真
は削除してあり
ます。

楽しかったはじめての農業科

熊倉小学校 三年 磯部 琴音

わたしの家には、広い畑がたくさんあります。ジャガイモ、大根、はくさい、にんじん、たまねぎ、そのほかにもたくさんのおいしいものを作っています。じいちゃんが元気だったころは、ばあちゃんと二人で作っていました。じいちゃんがいなくなってからは、ばあちゃんが一人でやさしいを作っています。

わたしは、三年生になって、学校の畑で初めてクワを使いました。クワはとても大きくて、畑をたがやすのがとてもたいへんでした。土が重くて持ち上げられなかったり思った所にクワがささらなかったりするばかりでした。

学校ではポップコーン、スイカ、えだまめ、きゅうりを作りました。たねまきや、水くれなど山本さんと磯部さんが、しんせつにおしえてくれました。スイカがカラスに食

べられないように、あみをはったりワラをしいたりしてくれました。

今年は、天気の良い日が多くて日光がすくなくないため、やさいはあまりよくなかったようでした。わたしたちのスイカもいっぱい大きくなってしまいいつしかできず、食べても甘くないスイカでした。ポップコーンとえだ豆は思ったよりたくさんできました。みんなでしゅうかくして食べたらとてもおいしかったです。

初めての農業科は、足がいたくなったりこしがいたくなったりしましたが、自分で作ったやさいを食べたときに、やさいを作るたいへんさとしゅうかくのよろこびを感じることができました。きゅう食ででくるやさいと家のごはんにでくるやさいを食べられるのが、とてもしあわせだと思いました。毎日朝早くからまっくらくなるまで畑でしごとをしているばあちゃんは、とてもすごいと思います。わたしは学校でおぼえたことで、早くばあちゃんのおてつだいをしたいと思います。

【優秀賞】

野さいを育ててわかったこと

豊川小学校 三年 江川 大智

ぼくたち三年生は、学校の前の畑で、安部さんと風間さんに教えていただきながら野さいを育てました。四月にトウモロコシ、キュウリ、トマトのたねを一れつずつ植えてから、みんなで水をあげました。水やりは一週間に二回くらいやりました。水やりをやっていると、土だけだった所に小さな葉っぱが出てきました。ぼくはなぜかうれしい気持ちになりました。葉っぱが少し大きくなったころ、安部さんが消どくをするということで、ぼくたちもいっしょに畑で見学しました。消どくは葉っぱやなえを虫からまもるためにするそうです。そのほかにも、ざつ草をみんななどって野さいをまもらしました。暑い時の草むしりは大変でした。

夏休み近くになると、それぞれの野さいの形や大きさがかわってきました。トウモロコシは長細い実がなり、ひげのようなのが出てきました。キュウリは緑色の実がなり、トマトの形はトマトなのに色は緑でした。家でおばあちゃんに話したら、

「トウモロコシはひげが茶色になると食べれるし、トマトは陽がもつと当たれば赤くなるよ。」

と、ぼくに教えてくれました。

野さいをみんなでしゅうかくし、ぼくたちはサラダにして食べました。ぼくはキュウリが食べられなかったのです。が、食べたらいいしかったです。家に帰ってお母さんに、

「ぼくキュウリ食べられたよ。」

と話したら、お母さんは、

「よかったね。みんなで作ったからだね。」

と、よろこんでくれました。ぼくもキュウリが食べられてうれしかったです。

また、来年もおいしい野さいを育てて食べてみたいと思いました。

がんばる喜び

松山小学校 四年 井上 愛

私は三年生のころ、農業はあまり好きではありませんでした。手がすぐよごれたり、虫がいてその作物だけさわれなかったりしたときもあって、学校で野菜を世話しなくても、畑をもっている人たちが育ててくれるからいいじゃないかと思ったこともありました。大豆をしゅうかくしたときも、だっこくしたときも同じようなことを考えていました。

ある夜、家の人に大豆をしゅうかくして、みんなでだっこくしたことを話すと、

「愛ががんばって育ててきた大豆、早く食べてみたいな。おいしく作ってみんなにたくさん持ってきてちょうだいね。」

と言ってくれました。

でも、私は今までががんばってきていなかったもので、あまりよろこぶことができませんでした。その時、私は育てることが思ったよりいやではなかったような気がしました。ただ、おいしい物を作って食べてもらいたいという気持ちになかったから、いやだったただだと気づきました。その日から、今までの分もががんばって大豆を料理したいと思うようになりました。

作る物がとうふとおからと決まり、さっそく作り始めました。支援員さんに手伝ってもらいましたが、みんなでやることが多く少し大変でした。しかし、家の人においしく食べてもらえるようにがんばりました。形のくずれてしまった物もありましたがうまくできました。

ふくろいっぱいのおからを二ふくろと、とうふを形がくずれないように一丁もらいました。今までで一番がんばったので、家の人もおいしく食べてくれるといいなと思いがら帰りました。家では、げんかんで家の人がとうふとおからをまっついて、真っ先に味見しました。すると、目を丸くして、

「こんな味初めてだ。すごくおいしい。ありがとう。」

とびっくりしたように言いました。がんばってやると人によろこばれることが分かりました。農業がとてもすきな

りました。

心も育つ農業科

入田付小学校 五年 若菜 美優

ある農業の時間に大根植えをしました。おじさんに教えてもらいました。最初おじさんの説明で、

「あんまり浅いとすぐ芽が出ちゃって、深すぎると遅く出るから、ちょうどよい深さにまくだよ。」

と言われて、むずかしいなあと思って、おじさんと呼んで教えてもらいました。そしたら、

「指を入れるとちようどだよ。」

と言ってくれました。実際に指を入れてやってみたら、おじさんがすごくほめてくれて、楽しいなと思いました。くわを使ったときも、親切に教えてもらい、上手に使えるようになったてうれしかったです。

大根の芽が無事に出て、すごくうれしかったです。一本試しにぬいてみたら、細くてよぼよぼでした。みんな育つか心配しました。でも、もっと大きくなって、太い立派な大根ができました。

他にも、じゃがいも、いんげん豆、大豆などいろいろな野菜をおじさんに世話の仕方を教えてもらいながら、みんなで育てました。とれた野菜で収かく祭やパーティーをしました。おじさんに教えてもらったので、おいしい野菜が

たくさんとれたと思います。

秋には、自分たちでお店を開き、地域に人に野菜を買ってもらう野菜市場を行いました。始まると、すぐにお客さんがたくさん来てにぎやかになります。会場では、

「入田付小学校の野菜はおいしいね。」

「ありがとうございます。」

という声が、あちこちで聞こえ、とてもうれしくなります。

農業科は、おじさんとも地域の人も会話が増えて、仲良くなれるので楽しいです。小さな種がおいしい野菜に変わるところがおもしろいです。そして、最後まで世話をすること、人とふれ合うことで心が育つと思います。だから、私は、農業科が大好きです。

協力員のみなさんから学んだこと

堂島小学校 五年 富田 夏芽

「じいちゃんが、協力員。」

食卓にばあちゃんの大きい声がひびきました。今年の春先のことでです。

私の通う堂島小学校は、農業科の実施校に指定される何年も前から、稲作栽培や野菜作りを行ってきました。農業を教えて下さるのは、堂島のおじいちゃん、おばあちゃん方、そう、「祖父協力員」です。この協力員に、うちのおじいちゃんが選ばれたというのです。

いよいよじいちゃんの初仕事の日がやってきました。今年の五月のことです。

「じいちゃん、うまくやれるかな。」

私は不安でたまりませんでした。

この日の作業は稲のたねまきで、私がなんとなくぎこちない手つきでもみをまいているのを見ると、じいちゃんは、

「ほれ、かしてみろ。」

と言って、慣れた手つきでもみをまいていきました。

「わあ、すごい。」

周りにいた生徒たちも感心していました。私は、じいちゃんのことを、ちよつとほこりに思いました。

祖母協力員の方たちは、質問にどんどん答えてくれる、たよりになる存在です。協力員の方たちの楽しい話や笑顔のおかげで、苦手な農業科も楽しくなってきました。じいちゃんとも、家で農業について教えてもらったり、議論したり、だんだん農業のことにについても感心をもつようになりました。

たまにきびしく指てきされたり、怒られたりするときもあるけれど、私は祖父協力員のみなさんのことが大好きです。さ来年中学校に上がると、もう祖父協力員のみなさんとは会えなくなります。でも、優しくしてくれたこと、教えてもらったことはきつと忘れません。

祖父協力員のみなさん、私に関心をもたせてくれたことに、とても感謝しています。これから、よろしくお願いします。

農業科で学んだこと

松山小学校 六年斎藤 瑞樹

わたしは、農業科でたくさんのことを学びました

一つ目は、ふれることの大切さです。畑の土に虫がいたら、いやがらずにさわる。そうすることで、畑にいる虫たちも一緒に野菜を育ててくれているような気がするからです。また、虫にさわることがなかなかないのでとてもいい体験になります。

二つ目は、達成感です。わたしの学校は、自分たちで卒業証書を作ります。支援の先生方に優しく教えてもらって、いいねに一つ一つ作っていくにつれて、達成感ができます。特に、最後の紙すきでは、みんなが仕事をして、自分達の証書をよく作り、達成感に包まれました。

三つ目は、農業の大切さです。農業は、土を使ったり草むしりをしたりしてきたなくなるという、きたくないイメージがありました。でも、わたしの家族が畑仕事をしている時や支援の先生方が作業について説明している時、とてもかがやいて見えました。

農業科の授業では、草むしりや水くれなどの作業の他にも、自分たちで育てた野菜を調理します。今年は、会津の郷土料理を作りました。四つの班にわかれて作り、郷土料理の作り方を覚えることができました。

そして、わたしの農業のイメージは変わり、自然とふれ合える、楽しいというイメージになりました。

わたしの家には、畑があるので手伝いをしたり、自分で種から収穫まで育てたりしてみたいと思いました。

農業をしている所が少なくなっている今、とても良い体験ができました。

また、自分で育てた野菜などをお店に出している人たちは、すばらしいなあと思いました。自分の育てた野菜を買ってもらえる。自分の育てた野菜が調理されて一つの料理になる。農業は人と人とを結ぶ、一つのコミュニケーションにもなっていると思いました。

【佳作】

大豆について

松山小学校 三年 高橋 凜

大豆は、六月ごろにたねをまきます。

わたしは、大豆のたねを始めて見た時、どうして赤い色をしているんだろうと思いました。たねは鳥や虫に食べられないように、赤い色でそめてあることを知りました。

畑の先生が、たねをまく場所を作ってくださいだったので、わたしたちは土を少しほって、たねを二つぶずつまいて、やさしく土をかけました。

わたしは、元気にそだってほしいなと思いました。

わたしが毎日食べている食事の中に、大豆が入っている食べ物があるかを考えてみたら、一番に豆ふを思いつきました。そのほかに、なっ豆や丸大豆しょうゆなどいろいろな食品になっているんだなあと思いました。わたしの大好きなみそしるのみそになることを知って、ちよつとおどろきました。わたしは、毎日みそしるを飲んでいたので、毎日大豆を食べていることになりました。

九月になると、緑色のえだに三つくらいたねが入ったさやがたくさんつきました。そのさやは、小さなけのようなものでおおわれていました。これがえだ豆です。わたしはえだ豆も大すきです。

十月十六日、大豆のしゅうかくとなりました。えだはか

れて茶色になり、さやははじめて土の上に落ちている豆もありました。えだのねもとをおさえて軽く引っぱるだけで、かんたんにぬけました。しゅうかくしたえだは、よくかんそうさせます。

十一月、大豆をからからとり出しました。

からはかんそうしてかたくなり、とてもちくちくしていました。わたしはとりのこしのないように、さい後のしあげのさぎょうをして、一つぶ一つぶ大切にとりました。

大豆は、はだ色できれいな丸い形をしていました。

そうごうのじゅぎょうでこの大豆を使って、豆ふを作ります。今からとても楽しみです。

農業科のべん強をして思ったこと

松山小学校 三年 福島 諒華

わたしは、三年生になってはじめて農業科を体けんしました。今までは、プランターでミニトマトやイチゴを育てたことしかなかったのですが、楽しみにしていました。

わたしがはじめて知ってびっくりしたことは、じやがいもを植える時に、ほうちようで半分に切ったことです。そして、そこにはいをつけてから植えたのでびっくりしました。土をかけるのは、だいたい三十センチくらいと言われたのでむずかしかったです。でも、畑の先生に、「上手だよ。」

と言われてうれしかったです。

植えた後は、どんどんぎつ草がはえるので、一生けん命草むしりをしました。草むしりをしないと、せっかく植えたじゃがいもが負けてしまうと教わったので、わたしは負けないでがんばって育ててほしいなあと心をこめました。

育ったじゃがいもをほる時は、長ぐつをはいてぐん手をしたので、少しはずかしかったです。でも一生けん命ほりました。ほってみると、大きいのもあったし、小さいのもありました。虫に食べられていいるのもありました。早く家に持って帰ってお母さんに見せたいなあと思いました。重かったけど、家についたらお母さんに、

「おっきいね。りっぱだね。」

と言われたのがんばったかいがあったなと思いました。わたしは、お母さんといっしょにポテトサラダを作りました。

じゃがいもは、いろいろな料理に使えるしおいしいけれど、大へんな思いをして作っている人がいることを考えるようになりました。育てている人がいるから食べられるんだなあと思うと、むだにしたり、のこしたりしちゃいけないなあと思いました。また農業科でいろいろな勉強をしてみたいです。

はじめてのお野菜作り

豊川小学校 三年 高橋 りほ

今年、わたしはのうぎよう科でたくさん勉強をしてきま

した。今年、わたしたちが作った物は、ミニトマト、きゅうり、ジャガイモ、トウモロコシです。学校で作ったのははじめてなので、「ちゃんと上手にできるかなあ」という気持ちと、ワクワクする気持ちが半分半分でした。

五月、ポットに植えたミニトマト、きゅうりは、見るたびにせが伸びて、葉が大きくなり、びっくりしました。トウモロコシは、はじめ二、三センチメートルしかなかっためが、実がなるころには、わたしの身長をこして、見上げるくらいに大きく育ちました。でも、九月の実がなるころにアブラ虫がたくさんついて、食べることができませんでした。わたしは育てた野菜の中で、トウモロコシを食べるのを一番楽しみにしていたので、見た時にはとてもがっかりしました。アブラ虫がトウモロコシを食べるなんてはじめて知りました。

十月には、育てた野菜が全部実ったので、クラスでしゅうかく祭をしました。班ごとに分かれて、シチューやカレー、フライドポテトなどを作りました。わたしはその中でシチューとフライドポテトを作りました。はじめて作ったシチューはこげて茶色のシチューになってしまいました。でも、育てた野菜が入ったシチューはおいしく感じました。フライドポテトは太くてもやわらかくて、はじめて作ったけれど、とてもおいしく作りました。

今回、のうぎよう科で色々な野菜を作ってみて感じたことは、野菜はたくさんさんの時間と手間がかかっているんだなあということです。

せっかく育てた野菜も虫や病気、天気のでいで食べら

れない野さいもあります。土と太陽そして人の手をかけて作った野さいを、ありがたくおいしく大切に食べたいと思います。

あいじょうのこもった野さいを、みんな「おいしいね。」と言っていました。

おいしいポップコーンができるまで

堂島小学校 三年 鈴木 華歩

わたしは、二年、三年とつづけてとうもろこしを育てました。学校のうぎょうかで野菜作りをしてきました。中でも、今年のとうもろこしは、とても金色にかがやいていました。

作った理由は、みんなで楽しく「ポップコーンパーティー」をしたかったからです。

とうもろこしのたねを植えるときに、おいしいポップコーンになってくるといいなあと思いました。どんなふうに芽がでてくるか、とてもわくわくしました。

やつと芽がでてきたかと思ったら、なんと鳥に芽を食べられてしまいました。みんなも私もがっかりしてしまいました。水やり当番の人が気づいたので、三年生みんなできわぎながら畑に行きました。のこっていたのはあなだけでした。

みんなで鳥に食べられないように、さくせんを考えました。キラキラする毛糸でまわりとばってんの形にかこみま

した。せいこうするかふあんでしたが、さくせんはせいこうでした。

ぐんぐんと大きくなって、やがて三年生のせをおいこして、先生のせもおいこしてしまいました。あまりの大きさにびっくりしました。

「教頭先生のせよりもおつきいなあ。」

「去年よりおつきいぞ。」

などの会話が聞こえてきました。

みんなでしゅうかくしたとうもろこしは、太陽にほして、実だけをとりました。

ポップコーンパーティーでは、しお、カレー、バター、しょうゆ、キャラメル味を作りました。わたしのはんは、一年生と先生方にあげました。みんなよろこんでくれました。

野菜作りはたいへんだけど、しゅうかくしたあとの食べるときはとても幸せです。自分で育てた野菜は、一番おいしいです。野菜を作ってくれる人々にとても感謝やします。のうぎょうかでは、いろいろな野菜作りを学ぶことができて、とてもよかったです。

さつまいを育ててみて

山都第一小学校 三年 岩橋 妃奈

はじめてさつまいもの苗を見た時、私はとまどいました。「こんなに小さな苗から、あの大きなさつまいもができる

のかなあ」と本当に心配になってきました。

そして苗を植える日になりました。空は晴れています。さつまいもの苗を植えてみたら、ますます心配になりました。

でも、さつまいもはついにマルチシートが見えなくなるまで育ちました。

草むしりの日は晴れていました。草は私の背をぬかしていました。そして、ねっこがふんばっていて、四人の力でやっとなけました。中の草をぬきたいのに、つるをふんではまうのがとてもこわくて、前に進めなくなっていました。私は先生が前に進めるのを見て、とてもすごいと思いました。三、四校時目をつかってやっとなけました。終わったら私の気持ちも、心の中もそうじされてきれいになった気分でした。

ついに、さつまいもをほる日になりました。

天気は少しもつていて、私は「雨がふるのかなあ」などと心配しました。私は友だち四人といっしょにほりました。でも、いろんな所をさがしても、ぜんぜんさつまいもは見つかりませんでした。ちよつとがっかりしながらさがしていたら、さつまいもを発見しました。四こあって、とても大きかったです。なかなかほれないので、先生にてっただってもらいました。さつまいもは二人で分けました。がっかりした気分からいっきにハッピーな気分にかわりました。その後もたくさんとれました。

さいごは、後かたづけです。のこった草や茎やマルチシートをなくします。私は「一秒でも早く終わらせたい」と

いうことが頭にいっぱい入っていて、一生けんめいやりました。そして全部終わって畑を見たら、とてもきれいでした。やってよかったと思いました。とってもとってもハッピーな気分でした。

来年も育てられたら育ててみたいです。

農作業にチャレンジ

駒形小学校 四年 木村 茉礼

私の家には、小さいけれど田んぼと畑があります。田んぼではお米、畑では野菜やそばを作っています。

私は、まだいろんなことのお手伝いはできないけど、じいちゃんやばあちゃんが仕事をしているのを見ています。

じいちゃんやばあちゃんは、みんながおいしいお米を食べられるように、収められるまで毎日稲の様子を見たり、草かりをしたりしていました。

ばあちゃんの作る野菜は、きゅうり、トマト、なす、じやがいも、とうもろこし、さといも、豆、白菜、大根など、色々あります。ばあちゃんやばあちゃんは、野菜たちを大事に大事に育てて、毎日の食卓に登場させてくれます。

ある日、ばあちゃんが、「野菜の顔を見るのは楽しいよ。子どもみたいにかわいいしね。」

と言っていました。私は、野菜に目や口なんかのないのになあと言いたくなりましたが、ばあちゃんといっしょに畑に

行つて、真っ赤になったトマトや青々としたきゅうりを見た時に、

「うわあ、おいしそう。かわいい形…。」

と、ばあちゃんの気持ちがとてもよくわかりました。

農作物を作る人は、食べてもらう人たちに喜んでもらえるように、雨や風、虫などから米や野菜を守るために苦労しています。いろんな苦労も、「おいしい。」と言ってくれる人たちの言葉で、いっぺんにふき飛んでしまうのかなあと思いました。

私が今一番してみたいことは、畑から大根をぬくことです。どれくらいの方がいるのかなあとわくわくしています。これからは、今まで見ていたことを、少しずつお手伝いして、自分でも野菜作りにチャレンジしてみたいと思います。じいちゃん先生、ばあちゃん先生、よろしくお願いします。

大豆の育つていく様子

駒形小学校 四年 遠藤 秋乃

私たちは六月四日、黄緑で一センチメートルほどの大豆の種をまきました。

種のまき方は、ポットの土に人差し指の第一関節まで突っこんで、そこに大豆の種を入れて土をかぶせました。

かぶせた土は種のおふとんになるので、ギュウギュウ押

したりしないで、ふわふわの土のまんま、豆の上にかぶせて、手で軽くなでるだけで完成です。

それから毎朝、私は「いっぱいになってね。」と思いながら、水もやりました。

大豆をまいて数週間後に、二枚の子葉が生えてきました。葉の大きさは五センチぐらいで、黄緑のだ円形の丸っこいかわいい形をしていました。私は、「どんな植物でも、子葉はにているんだなあ。」と思いました。

そんな二枚の子葉の間に、とても小さな若葉が生えていました。そこには、いつも一てきのきらきらとひかっている水がのっていました。

二週間ほどたつと、その小さな若葉は子葉の二、三倍もの大きさになりました。そして、上を見ると子葉のときと同じように、黄緑の若葉がありました。すごいスピードで大きくなる大豆を見て、「せのびをしているみたいだなあ。」と思いました。

それから、葉が三十枚ぐらいになると、実ができてきました。

いよいよ九月十日に、楽しみにしていた大豆の収穫をすることになりました。

種まきをした時からの思いが伝わったのか、たくさんの実がついていました。

根はからんで手をつないでいるかのようでした。その根には、じゃがいもみたいな物体がついていました。本で調べてみると、び生物でお互い必要な栄養を作って、相手にあげているそうです。とてもおどろいてしまいました。

収穫した大豆はきな粉にして、アイスやおもちにかけて食べてみたいと思います。

農業科で楽しかったこと

熱塩小学校 五年 原 里沙

「パラパラパラ。」

米の種まきをしました。それからいいねいに土をかぶせました。そして大事にハウスへ持って行きました。イネの苗を育てるハウスを借りて、そこで育てるのです。大きく育ってほしいので、おつことしたりこぼしたりしないように、大切に持って行きました。どんなふうに着ていくか、ワクワクしました。これから大切に育てていきたいと思いました。

約二週間後に、イネの赤ちゃんの観察に行きました。私の予想の高さより大きく育っていたので、びっくりしました。イネはきれいな黄緑色で、さわるとふわふわしていて、サラサラという音がしました。私たちがまいた種が育ったので、とてもうれしかったです。

大きく育ってほしいと声をかけながら、田植えをしました。どんどん大きく育っていききました。

秋になると、イネがたくさん実をつけて、たれさがってきました。イネかりの時、私は初めてかまを持ちました。イネかりは初めてなので、ものすごくこわくてきんちゃんしました。でも、ボランテアのみなさんが、

「カマはこうやって持つんだよ。」

と、やさしく教えてくれました。イネをかる時、フワとさきのようないいにおいがしてきました。「いいにおいだな。」と思いました。カマの使い方もうまくなってきて、一回で「ザクツ」とかれるくらい上手になりました。とってもうれしかったです。たくさんのお米ができて、「収穫祭に自分たちで育てたお米がおもちになるんだ」と思うとワクワクしました。

お米を育てて、作物が私たちと同じように一生けん命に生きていることや、大切に育てるとおいしいお米ができることが分かりました。それに、みんなで一生けん命にやると、楽しく農業ができることも分かりました。来年も命の大切さを勉強していきたいです。

私の農業体験

豊川小学校 六年 三橋 瑠香

四月十四日、種まき体験について教わりました。苗を作るために土に種まきをするのです。五年生時はあまり立派に育たず、自分たちの苗では米を作ることはできませんでした。だから、今年は「絶対に自分たちの苗で育てたい！」と思いました。最初は農業学習なんて何のためにやるの？とつまらなかった気持ちですが、自然にやる気になまっていくのを感じました。

五月十九日、私はドキドキしていました。自分たちの苗

三年間の農業科

熱塩小学校 六年 岩佐 絵夢

を田んぼに植えることができるか心配だったからです。育苗箱をみたら、キレイに育っていました。これなら苗も元氣よく育つ！と思って、苗を田んぼに植えていきました。

育てた苗がおいしいご飯になってほしいと思いました。苗がだんだん黄色くなり、稲になってきたころ、すずめから稲を守るため、かし作りをしました。みんなでどのようにするか考えました。何日もかけて作ったかかしで、稲を守るかなと思いました。

十月、只浦さんといっしょに植えた苗は立派な稲に育っていました。土は見えなくて黄色い稲がさらさらと風に揺れていました。私は苗がこんなに大きくなったんだあ！と信じられませんでした。稲刈りでは、この稲がホカホカのご飯になることで頭がいっぱいでした。汗をいっぱいかいてすごくつかれたけど、うれしくて自然に笑っていました。

十一月二十六日、今まで教えてくださった只浦さんのために、感謝祭をやることにしました。私は味噌汁を作りました。只浦さんに喜んでもらうために、味などにも気をつけました。只浦さんからの話で、私たちが作ったお米が金賞になったことを聞いて、すごくおどろきました。テーブルに出された白くてホカホカのご飯の味は、かめばかむほどあまいミルクのような味がしました。私は自分で作った米の味や只浦さんへの感謝の気持ちをいつまでも忘れずにいたいです。

私は農業科をやってきて、今とてもうれしく思います。

最初は、農業の学習は好きではありませんでした。土で手は汚れるし、運動着はドロドロ、雨の日は土がぬかるんでいて、いやだなと思っていました。畑や田んぼには、虫がいっぱいいて、私は虫が大の苦手なので農業の作業がうまくできませんでした。

「ここには虫はいないのかな。」とか、思ってしまうからです。でも、日に日にやっていると、虫なんて気にならないぐらい楽しくなってきました。

夏には、トウモロコシパーティーが、それがすごく楽しみです。トウモロコシをいっしょけんめい育てます。

「やつぱりトウモロコシは焼くのが一番。」

「ええ。そんなことはないよ。ゆでるのがだっておいしいよ。」そんな声が聞こえてくるのも楽しみの一つです。私は毎年、焼く方を選びます。来年は中学生なので、中学校でもあればいいなとすごく思います。あとは枝豆アイスです。小さいころは好きだったけど、今は食べなくなっていました。でも、アイスはあきないし、プロの人の作る所も見られて楽しいです。

これらの農業科のまとめの発表会が、十一月二十一日に喜多方プラザでありました。最初はドキドキしたけれど、自分がどれだけ農業をして、どう感じ、変わったのかを全部見られてすごく感動しました。自分の五年生の時の笑顔

を見てみると、今の農業をしている時の方が、物を育てる
ありがたさや地域の人々への感謝など、自分で体験して笑
顔がさらに楽しい笑顔になったと思います。これからも、
育てる感謝の気持ちや苦労を忘れず生きていきたいです。

稲刈り体験

山都第一小学校 六年 田代 直也

「田んぼ広いなあー。」

「この広さを刈るのかあー。」

ぼくたちは、今年で二回目の稲刈りを体験しました。

「うわあー楽しみなあー。」

と、みんなが言っていると、なんだか自分もワクワクして
きました。

そして稲刈りです。初めは、「うまくできるかなあ」と思
っていたけれど、刈ってみると結構簡単でした。でも、刈
り続けているとすぐに疲れてしまいます。ちょっと休憩を
している時に思いました。「今ぼくたちがやっていることを
親たちはやってくれているんだ」と考えると、やる気が出
てきました。稲を刈っていくと一緒に作業していた耶麻高
の人に、

「上手だね。」

と言われました。嬉しかったです。そのまま稲を刈ってい
って、辺りを見回してみると、みんなすごい量を刈ってい
ました。ちよつとあせりつつも刈り続けると、みんなに追

いつきました。耶麻高の先生に、

「君上手だね。」

と言われた時、すごく嬉しい気持ちになりました。ぼくは、
耶麻高の人と協力してやるのが最初は不安でした。でも、
だんだん楽しくなってきました。

休憩をとっていた時、田んぼを見たら稲の色がきれいで
「すげー。」

と小さな声で言ってしまいました。でも本当にきれいな景
色を見ると、疲れがとれていきます。お茶飲みながら田ん
ぼを見て、「田植えもしたかったなあ。」と感じました。

「もう時間ですよー。」

という声が聞こえて、「時間がたつの、早いな。」と思いな
がら稲をみると、山の様に積み上がっていました。この光
景を見て「こんな位お母さん達に食べさせたいな。」と思
いました。

【第一次審査通過作品】

楽しかったよケナフの紙すき

関柴小学校 三年

萩原 結菜

「うまくできるかな。」

わたしははじめてケナフの紙すきをやりました。わたしの番が来て、

「うまくできるといいなあ。」

と思いながら、きんちようしていました。水そうの中には、パルプというものが入れてありました。水そうの中に手を入れてみたら、へんなかんじがしました。だいこんをすりおろしたみたいになっ白でした。四角のおさらみたいななのをもって水そうの中に手を入れて、かきまぜるようにしました。おち葉も入れました。やり方を教えてくれた人にも、「じょうずだね。」

と言われてうれしかったです。一人二枚ずつ作りました。紙を作ることがこんなにたいへんだったことが、はじめて分かりました。おち葉もきれいに入れられました。二枚ともうまくできたのでよかったです。一枚が一人五分ぐらいかかりました。わたしは、紙を作るのに二分ぐらいかなと思っていたけれど、五分もかかったのですごくびっくりしました。ほんとうに今の子どもたちは、

「すごくぜいたくなのかな。」

と思いました。

わたしたちが今使っているノートは何十枚もあるから、一枚一枚をだいにたいせつに使いたいと思いました。こんなにだいな勉強を教えてもらったおかげで、いろいろなことを知ってよかったです。わたしは、紙を一枚作るの

でもせいっぱいなのに、のうかの人たちは、「すごくがんばるなあ。」
と思いました。紙をずっと大切に使いたいです。

にんじんを育てた

慶徳小学校 三年

大竹 純佳

夏休みに、にんじんのたねをまきました。にんじんのたねは小さく細いです。わたしは「大きくおいしいにんじんになあれ」など、たねを心をこめてまきました。やまとまき終わりました。とても暑くたいへんだったので、「やまと終わった。」などと思いました。

何日かたつた後、めができました。葉っぱがちよつとギザギザしていました。その日、草むしりをしました。草がにんじんのまわりも、にんじんのめがはえている場所にも、いっぱいありました。

また何日かたつて、小さな実をつけたかなと思ったとき、「いも虫がにんじんの葉を食べてるよ。」

と支援員さんから聞いて畑に行ったら、声が聞こえたかなと思いました。

「ぼくたちについているいも虫をとって、たすけて。」

などと聞こえました。びっくりしました。にんじんがしゃべるわけがないなと思いました。その夜、あれは空耳かなと思つて、なかなかねむれませんでした。

いよいよにんじんほりの日が来ました。わたしは心の中で、「やつとにんじんをほるんだ。」と思いました。にんじんを育てた時に、たねをまいて、草むしりをして、いも虫をとって、いろいろなことをしたからです。にんじんをほ

った時、かんたんにぬけました。いっぱいほっていったら、いろいろな形がありました。三個くつついているような形や、ぼこぼこふくらんでいる形などいっぱいありました。それを家に持って帰ったら、おばあちゃんが、「こんなにでっかいの持ってきたの。すごいね。」と言ってくれました。農業科をするといい思い出ができるんだなあと思いました。

いろんな人に教えてもらった農業科

熱塩小学校 三年 山口 クルミ

私は農業科で勉強しておどろいたことが二つあります。一つ目は、昔の道具の良さです。十一月二十六日に、大豆の豆打ちをしました。さいしよは、学校にあった細い竹で豆を打っていました。あまり豆が落ちません。その時、車が来て人がおりてきました。農業のことにくわしい小林よし正さんです。

しばらくすると、「バチン。」と大きな音が聞こえました。音がする方を見ると、よし正さんが竹より大きいぼうで、豆を打っていました。よし正さんに「これは何のぼうですか。」

と聞いたら

「クルミの木で作ったぼうだよ。」

さい後に、小さい穴のあいたざるみたいなのなど、昔の道具をみんなにしょうかいしてくれました。「昔の人は、道具作りがじょうずだったんだなあ。」と思いました。

二つ目は、野さいやくだものはいろいろな料理になると

いうことです。六月にイチゴがたくさんとれたので、三年生でイチゴ料理を作ることになりました。グループごとに料理の作り方を調べて作りました。他のグループはすぐに作る物が決まったけれど、私たちはなかなか決まりませんでした。みんなで考えてやっとイチゴジャムに決まりました。

できたイチゴジャムをちよつと味見したら、「おいしいー。」

と、思わず声を出してしまいました。私はいつも食べているジャムより甘くておいしくておどろきました。きつと、心をこめて育てて料理したイチゴだからだと思います。他のグループの人たちも、イチゴシャーベット、イチゴジュースなどいろいろな物を作りました。

私が大人になっても、よし正さんのように子どもたちに「農業はすばらしいんだよ。」と教えてあげたいです。

農業科の学習で初めて知ったこと

高郷小学校 三年 荒明 祐里

私は農業科の学習で初めて知ったことがありました。それはたねまきのし方です。

六月二日に、たねのまき方をいのまたさんに教えてもらいました。そこで初めて知ったことは、たねを土のおくに入れると、育ちづらいということです。私はそれを知った時、とてもおどろきました。それでおちついてたねを入れて、土をかぶせました。いのまたさんに、そのことを言うてみると、「よくできたね。」

「がんばったね。」

と言われました。うれしかったし、農業科はたいへんだけど、おもしろいと思いました。私は、次の農業科でもそのことをじつかんして、やってみたいなと思いました。

六月二十三日には、耶麻農業高校の人にも教えてもらいました。私は農業科がとて好きになりました。

夏休みが終わって畑に行ってみると、六月にうえたなえがすくすく育ち、りっぱになっていました。キュウリの実がなり、えだ豆もたくさんなっていました。

今、そんなにりっぱに育っているのは、いのまたさんや耶麻農業高校の人たちのおかげだと思います。私は、キュウリやダイズ、ネギの育て方が少し分かってよかったです。いっしょうけんめい今まで育ててきて、しゅうかくできたそのよろこびが、私の心には一番の思い出です。来年は、今年分かったことを生かして、もっとじょうずにやさいを作りたいです。

作物を育てる大変さ

松山小学校 四年 増田 千晴

私は学校の総ごうの時間にいろんな作物を育てて、作物を育てることの大変さを知りました。

私は三年生の時に大豆を作りました。大豆を作る時には、公民館の方たちが教えてくれました。大豆の種をまく時、大豆の種には工夫されていました。それは、種が鳥に食べられないように赤くそめてあったことです。私は、「種が食べられないように工夫がしてあつてすごい。」と思いました。

三年生の時には、じゃがいもを作りました。その中でびっくりしたのは、じゃがいもがネズミに食べられて、なくなっていたことです。私はじゃがいもがネズミに食べられるなんて思いませんでした。

じゃがいもを育てる時には、もう一つ大変なことがあります。それは、じゃがいもの葉が好物のテントウム虫がよってくるので、おいはらわなければいけないということです。こういうことを体験して、農家の人たちはいろいろ大変なことがあつても、一生けん命に野菜を作っていてすごいと思いました。

私の家では、ばあちゃんが畑で野菜を育てています。ばあちゃんが作る野菜は全部とてもおいしいです。ばあちゃんの野菜を食べるとみんな、

「おいしい。おいしい。」

と言います。ばあちゃんはそれを聞くと、とてもうれしうににこにこしています。私は、

「ばあちゃんは、野菜おいしいって言われるとうれしい。」と聞くと、

「うん。作るのは大変なこともあるけど、作ったのを食べて、みんながおいしいって言ってくれるのがすごくうれしいよ。」

と言っていました。

野菜は作るのは大変だけれど。やっぱり「おいしい」って言われると、だれでもうれしいです。私は、大変な思いをして野菜を作っている人たちと野菜の命に感しゃしています。

サツマイモを育てた

岩月小学校 四年 生江 美有

私は、学校のさつまいもを家に持ち帰りました。そしてらばあちゃん、

「美有。なんだってめがいさつまいもをもらってきたなあ。

ばあちゃん、もつとでつかいのを作ったよ。」

と言いました。それで、私は岩月小では毎年さつまいもを植えていることや、松の子ファミリーで今年もさつまいもを植えたこと、十月になろうとする頃、いもがどれだけ重いのかはなんてい会があつて、私の班のいちばん大きいものの重さがなんと千六百二十グラムあつて、一位だったことなどを話しました。

いつも思うことですが、どうしてさつまいもの苗はねっこがないのか、とても不思議でした。さつまいもの苗を植えた後の管理は、松の子ファミリーのお父さん役、お母さん役の五、六年生が水をまいてくれました。

葉っぱの状態がぐにやっとなっていたのが、明日にはしつかりとなつてくれるのかなあと思いました。その後の管理は、曜日ごとに当番を決めて水くれをしました。私は、木曜日に水くれ当番をしました。三回くらいやりました。

しゅうかくまでの間、ひりょうをくれたのは班長でした。別の日、みんなで草むしりをしました。そんなに草はありませんでした。だれかが草をむしってくれたのかなあと思いました。あとで知ったことですが、支援員の小桧山さんだと教えられました。暑い日なのに大変だったろうなと思いました。

大きく育てるコツは、かわいているときに水をたくさんくれることだと思います。おどろいたことに、サツマイモはやせた土地でもよく育つそうです。このことは、パソコ

ンで調べてわかりました。見えない所で、多くの人の手をかりて、さつまいもは、大きくなつていったんだなあと思いました。さつまいもを大切に食べていきたいと思っています。

思い出に残る農業科活動

入田付小学校 四年 神田 瑞紀

私は、農業科でいろいろやってきたことで一番、心に残る活動が二つあります。

一つ目は、夏休みにやった野菜パーティーです。二つ目は田植えといねかりです。二つともみんなで協力して楽しくできたからです。

野菜パーティーでは、じゃがバターと、きゅうりと、スイカを食べました。食べる前に、そばの種まきをしました。種まきは、けっこうむずかしかったです。やり方は、手の平に種を少しとって畑にまきます。種をまく時注意することとは、一か所にまとまらないようにまくことです。そのことに気をつけて、みんなはていねいにやっていました。種まきが終わったら、食堂に集まってじゃがバターときゅうりと、スイカを食べました。みんなはきゅうりが太くておなかがいっぱいになっているのに、スイカをたくさん食べておなかがタプタプになっていました。みんなで協力し活動したり食べたりにとても楽しかったです。

二つ目の田植えといねかりは、あせをかいてみんなで楽しく協力してやったからです。田植えでは、足を中心に入れると、ぬるっとしてみんなは、わーわー言っていました。でも、来てくれたおじいさんやおばあさんたちに、やさしく分かりやすく教えてもらってすいすい進みました。

今年、初めての一年生も、がんばっていました。お米の一つぶ一つぶが、どんどん育っていききました。しかし、強い風がふいた日があつて、いねがたおれてしまいました。でも、いねかりの日、おじいさんとおばあさんたちに教えてもらい、いねをじょうずにかれました。全部かりとったあと、落ちていいるいねを一本ずつ拾いました。おいしいお米ができました。とても楽しい思い出ができました。

食べ物のがたさ

関柴小学校 四年 大竹 るな

私の家のじいちゃんとはあちゃんは、農業をやっています。だから、小さいころから、

「お米は出来るまで八十八の手間がかかっている、たくさんのお米も一つぶの米も、同じ手間がかかっているから、残しちゃダメだよ。」

と、言われていました。

四月は、たねまきをします。土を入れていねになるまで大切にハウスの中で育てています。緑のいねになったら、田植えが始まります。田植えが終わっても、じいちゃん、ばあちゃん、毎日、田んぼの様子を見に、朝早くからでかけて行きます。水の様子を見に行ったり、いねが育っているかを見に行ったりするそうです。天気も毎日変わったりますので大変だと思います。休みもなく、毎日、毎日、いねが大きくなるまでていねいに育てています。

秋にやっと、いねかりが始まります。機械やトラックを使って、みんなで協力してお米を作って、私が食べる時まで

でいろんな手間ひまがかかっているんだと思うと、残さず、きれいに食べないといけないと思います。

私は学校でジャガイモを育てました。ダンシヤク、キタアカリ、フランス産の三種類のジャガイモを植えました。毎日、成長していくのが楽しかったです。休み時間もちよくちよく、ジャガイモが成長していくのが楽しみで、見に行っていました。お米もジャガイモも同じ成長を続けて生きていくことが分かりました。どんな作物でも、作った人の思いが入っていて、そう考えて食べると、おいしく食べることができると思いました。

じいちゃん、ばあちゃん、これからも、おいしいお米をたくさん作って下さい。

そして、食べる人、みんな、笑顔になるように。

みんなで作る喜び

熊倉小学校 四年 一條 あすか

わたしたち四年生は、トマト、きゅうり、じゃがいも、かぼちゃ、ポップコーンを作りました。

春に、畑をたがやすことから始まりました。種から育てました。畑が草まみれにならないように、草むしりをしました。いっしょうけんめいに草むしりをしたので、手はつかれてあせびつしよりにになりました。でも、畑がきれいになったのでよかったです。

夏休みに畑に行ったら、きゅうりができていました。きゅうりを食べたなら、パリッといい音がでて、みずみずしくて、とってもおいしかったです。もっともっときゅうりが食べたかったです。

野菜を作って育てたら、種から芽が出て、葉っぱになって、つぼみができて、花がさいて、野菜ができることがわかりました。どんどん大きく育つ喜びを知りました。

クラスで、かぼちゃスープとポップコーンを作って食べました。かぼちゃスープは、かぼちゃの味がこくて、とろけるような味でした。とってもあつあつで、おいしかったです。ポップコーンは、塩味、カレー味、バター味を作って食べました。わたしは、塩味が一番おいしかったです。

家で、学校でとれたじゃがいもをみそしるにして食べました。みんなで育てて、ほったじゃがいものみそしるは、いつもよりおいしく感じて、

「うまい。」

と言いました。お父さんと、お母さんも

「おいしいね。」

と言ってくれました。おいしいものを食べると、みんな笑顔になりました。

みんなで、楽しく、いっしょうけんめいに育てた野菜を食べられることは、とても幸せだなと思いました。また来年も、野菜をたくさん作りたいです。今度は、作ったことのないかぶやだいこんも作ってみたいと思いました。

しえん員さんに教えてもらったこと

熱塩小学校 四年 上野 葉希

わたしたちの学校には、小林よしまささんという地いきの方が来てくださっています。

私たちは、二年生の時から農業科をやっています。小林よしまさは、私たちや先生などに時にはやさしく、時に

はきびしくしどうしてくれます。きびしくしてくれないと野菜が育たないとこまるので、よしまささんの力がひとつうだと思っています。

例えば、大根や宇津野かぶを植える時に、苗を植えたあとに米のからを木さく液にまぜておいた物を土の上にかぶせます。

「その上に土をかぶせて。」

とよしまささんに教えてもらいました。その他にも、野菜の植える場所、たまねぎのたねの数などいろいろあります。植える場所などの他にも言葉もあります。

よしまささんの言葉はたくさんあるけれど、その中でも私はこの言葉が一番好きです。

「野菜やイネは人間が作るのではなくて、野菜やイネたちががんばっているだけで、人間がその育ちをささえているだけで、野菜を作ると言わずに育てたと言っている。」

という言葉です。私はその言葉を聞いて、すごく感動しました。

私は農業科の勉強でやったことを家の畑でためしてみ、学校の野菜よりもおいしい野菜を育て、おいしく調理して食べたいと思います。学校からもらったかぼちゃをにて食べました。私はほかほかで甘いかぼちゃだと思いました。

私はこの学校に農業科の勉強があつて良かったです。

これからも、地いきの人の話を聞いて、くわしく農業科の勉強をやっていきたいと思っています。

野菜作り

加納小学校 四年 原 実里

私は、一年間でいろいろな野菜を作ってきました。野菜を作っている時は、

「早く、自分で作った野菜が食べたいなあ。おいしく、おいしいく育つといいなあ。」

と思っていたので、いつも一生けん命作業をしました。それでも、大変でむずかしい作業が二つありました。

一つ目は、白菜の虫とりです。私は、白菜につく虫をさわるのがいやなので、いつも、

「虫がいけないといいなあ。いたらどうしよう。」

と思っていたので、なかなか葉をめくることができませんでした。でも、

「いつかは食べるんだ。たくさん食べられるようにがんばらないと。」

と思うと、勇気が出て葉をめくることができました。全部の白菜の虫とりが終わると、

「やつと終わった。はあ。」

というくらい大変でした。

二つ目は、大根のまびきです。まびきとは、大根の種を二つまいたので、すると、同じ所から二本の大根が出てくるので、もっと大きく育てるために、小さい方の大根をぬく作業です。私は、大根をぬくのより、二つの大根を二つに分けるのが大変でむずかしかったです。葉がからまっていて、おらないように分けなさいといけなかったもので、とても集中してやらないといけな作業でした。でも、私は集中してできたので、まちがえないでまびきができました。

この二つのことは、本当に大変で、むずかしい作業でした。でも、がんばってやったので、とても心に残りました。

家でもお手伝いをして、どのくらい上手なのか、家族にみてもらいたいです。

大豆が食べられるようになるまで

堂島小学校 四年 鈴木 未来

わたしは、五月二十五日に、四年生的小伙伴们と大豆の種をまきました。初めて大豆の種をまいたので、どういうふうに大豆ができていくのか楽しみでした。

大豆の種をまいてから、大豆の栄養を調べました。調べた結果、「植物性たんぱくしつ」、「大豆イソフラボン」、「ビタミンB1」、「ビタミンB2」、「ビタミンK」、「ビタミンE」、「カルシウム」、「大豆レシチン」、「大豆サポニン」、などがありました。大豆には、いっぱい栄養があることが分かりました。

大豆の栄養を調べ終わったのでそれを生かし、大豆ではどんな料理が作れるのかを調べました。調べた料理の中から三つ選びました。選んだ料理は、「大豆ドーナツ」、「大豆とチーズの春まき」、「大豆入りキーマカレー」をはんごに作ることにしました。そして、はんごにだれが何を持って行くかを決めました。

十月二十八日に大豆料理を作ることにしました。わたしは大豆とチーズの春まきのはんでした。わたしは、うす切りハムを持っていきましました。そして、料理を作りました。

作った料理をいつもお世話になっている先生方にも少し食べてもらいました。先生方は、

「おいしかったです。」

ちも食べました。とてもおいしかったです。大豆ドーナツと、キーマカレーもおいしかったです。

大豆は、まずえだ豆になって、その後そのままおいておくと大豆になることがわかりました。大豆を作ってよかったです。

農業科のたいへんさ

山都第一小学校 四年 伊藤 慧南

私たちは、農業科で「あわ」を育てました。

最初に見せてもらったあわの種は、大きさがとっても小さくて、私の思っていた種は一センチメートルぐらいでした。でも、実さいでは三ミリメートルでした。こんなに小さな種なのにあんなに大きくなるなんて、とてもびっくりしました。

そして、あわのことをインターネットで調べました。

それから何日かすぎて、あわの種を一グループ四人か三人になってあわを育てることになりました。

五月二十七日、あわの芽が出ました。気づいたことは、とても小さくてただの草みたいでした。

家に帰って、私はあわが成長するのが楽しみになってきました。

そして、夏休みも終わって、ひさしぶりにあわの様子を見に行きました。成長はずいぶんしていたけれど、たおれているあわがありました。私は、畑に行く前、先生が、「たおれているあわがあります。そのあわをちゃんと立ててあげて下さい。」

と、言っていたのを思い出しました。ぼうを土にさしてあ

わとぼうをひもで結んであげました。

何週間かすぎて、また畑に行きました。こんどはなんと大切なあわの実が落ちていたのです。鳥に食べられているあわもありました。鳥に食べられないように、いらないシーディーをひもにつるしたり、キラキラテープをはったりしました。

それからしゅうかくをしました。何日かかわかして、だっこくをして、とうとう精あわをすることになりました。今回は手でやるのでとってもたいへんです。でも、農家の人のたいへんさが、分かりました。

バケツ稲から学んだこと

松山小学校 五年 須藤 玲子

わたしたちの学年はさつまいもや稲、大豆を育ててきました。その中でわたしが一番心に残ったのは、稲です。

四月に農業支えん員の方々が苗を持ってきて下さいました。わたしは、バケツ稲を育てるのは初めてなので不安でした。どうかじょうぶに育ちますようにと願いながらどろどろの土の中に苗を植えました。せまいバケツの中でも苗はどんどん大きくなりました。毎日少しずつ成長していく様子を見るのがとても楽しくなっていました。

夏休みには、学校のプールに行ってその帰りに稲に水をあげるようにしました。しかし、大きなハプニングがありました。それはプールがこしょうしてしまったのです。そのため学校にも行かなくなり、しだいに稲のこともわすれてしまいました。夏休みが終わって久しぶりにバケツ稲を見に行ったら稲はかれていました。クラスみんなもショ

ツクを受けていました。先生は、

「稲はかれてしまったら、もう元にはもどりません。みんなの思いやりが足りなかったかもしれないね。」
と言いました。次の日からは毎朝すずしいうちに水くれに行くようになりました。稲が生き生きと喜んでいるように見えました。

いつものように水をくれているとほがでできました。一つぶとつて中をみてみると白い液体ができました。これは、赤ちゃんのほでそれが固まってお米になるんだそうです。

そのほは、だんだん数が多くなっていきました。うれしかったのですが、それが茶色や黒になってしまいました。いもち病だと分かった時は、もうショックでわたしたちの稲はこれで終わりのかなと思いました。でも、あきらめずに水をあげつづけました。するとふつうはかれてしまうのにかれませんでした。その時は、すぐうれしかったです。そして稲づくりには、協力や思いやりが必要だったということを学びました。

バケツ稲

松山小学校 五年 坂内 友貴

ぼくたち松山小学校の五年生たちは五月からバケツ稲を育ててきました。

最初に土をバケツの中にいれて、それから苗を植えて水をあげました。

それからは、朝学校へ来てから校庭を走るときは、いつもバケツ稲を見てから教室にもどっていました。水が少な

くなっているときは水もあげました。

そしてどんどん成長し、中ぼしをしました。バケツ稲は、この中ぼしでかれることが一番おいなので注意してやりました。

それから夏休みも水くれをわすれるとすぐかれてしまうので、友達と遊んでいる時、

「学校に行つて水くれしてこよう。」

と友達をさそつて水くれに行つた時もありました。

夏休みが終わつてちよつとして、総合の勉強の時間に先生が

「いもち病じゃない。」

と言つたので、ぼくたちの班のバケツ稲をみてみると、黒くなつていていもち病にかかつてしまつていました。その時はすぐショックでした。みんなはいもち病にかかつている部分を手でとつてきれいにしました。

みるみるうちに稲が大きく成長して、葉やくきすべてがこがねいろになりました。それを見るとすぐうれしい気持ちと、ここまで無事に成長してほつとした気持ちになりました。

それから稲をかり、ベランダにほしておいて、それからだっこしました。だっこには牛にゆうやジュースなどの紙パックを使用しました。そして今は、その紙パックの中にお米が入っています。調理してたべるのがとっても楽しみです。

農業の大変さ

関柴小学校 五年 大竹 そら

私の家では農家をやっています。おじいちゃんとおばあちゃんとお父さんが作ったお米を、私は毎日おいしく食べています。それで小さいころからお母さんに、

「ご飯つぶは、残しちゃだめだよ。」

と言われていました。それは、おじいちゃんとおばあちゃんとお父さんが、心をこめて大切に育てたからだと思います。

おじいちゃんとおばあちゃんは毎日朝、田んぼに行ってお米の様子を見ています。私は、おじいちゃんとおばあちゃん、なぜかお米を自分の子どものように育てているように見えました。たねまきは五月にやります。うちの田んぼはたくさんあるので、農家の友達や機械と協力していろいろな活動をしています。私の田んぼのイメージは、虫がたくさんいて、どろはきたないというイメージしかありませんでした。だけど、おじいちゃんとおばあちゃんはどんなに大変でも、みんながおいしく食べられるように、がんばっていると思いました。

私も五年生なので、四月から農業科でお米を育てました。黄金米というもち米です。私にとっては、初めての農業体験でした。少したつてから芽ができました。二百本ぐらいの芽ができました。有機百パーセントという肥料もあげました。田植えの時は、苗をみんなで植えました。やっぱり予想どおり虫がたくさんいて、どろがどろどろしていて気持ち悪かったです。稲かりまでいろいろな体験をしました。どれも大変な作業でした。

今までは、食べるだけだったけど、作物を育てるといい体験ができたと思います。この体験を通して、農業の

大変さが分かりました。作物を育てるには、苦勞に負けないう気持ちと愛情が必要だということが分かりました。おじいちゃんとおばあちゃんがやっている農業の大変さを実感しました。おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう。

農業科を通して学んだこと

熊倉小学校 五年 磯部 実悠

わたしは、三年生のときから学校で農業を学んでいます。三、四年生のときは野菜作りだけでしたが、今年から五年生になったので、初めて田植え体験を行いました。

五月に、支援員の山口定之さんといっしょに学校に田んぼで田植えをしました。わたしは田植えをしている所は見ることがありましたが、自分の手で田植えをするのは初めてでした。田植えで苗を植えるときは、親指、人差し指、中指を下にして苗を持って植えるということを初めて知りました。土はドロドロしていて、一度足を入れるとぬけづらくなって、とても苦勞してもうやりたくないなあと思いました。でも、わたしは昔は機械もなく代かきからすべて、人の手で行われていたんだなと思いました。それにくらべて現代は、ほとんどが機械にたよっていて、人の手で田植えをするということは少なくなっているから、とてもいい機会なんだなあと、思つてがんばることができました。それから、わたしは、休日田んぼの前を通るたびに、「ほら、見てわたしたちが植えた田んぼだよ。」などと、日々成長していく苗を見るのが楽しくなってきました。

そして、まさにまった稲刈り、台風のえいきょうも少し

出て稲がたおれている所もありましたが、稲刈りができてよかったです。稲刈りのやりかたを山口定之さんがお手本としてやってくれました。やり慣れているようで、すばやくきれいに刈りとれていました。わたしは初めての体験なので、はじめのうちはうまく刈ることができませんでした。が、やっていくうちにだんだん慣れてきて、あつというまに稲刈りが終わりました。つかれたけれどとても楽しかったです。

わたしは、この農業科という学習を通して、これからは他県でも農業という学習をして、野菜作りは楽しいということをおぼえてもらえたらいいなと思いました。

農業科で学んだこと

熱塩小学校 五年 遠藤 里穂

四月に、六年生とたねもみをまきました。たねもみにつかっていた土は、魚のないぞうでできているそうです。それで、私は、「魚のないぞう」と聞いたときに、さわりたくありませんでした。でも、がんばってさわったら、サラサラしていて気持ちよかったです。初めて自分の手でやったので、いい経験になりました。

五月に、初めて「ドロンコ祭り」というのをやりました。田んぼの中に入ったら、グチョ、グチュと、あちこちから聞こえてきました。最初は、「なんでドロンコ祭りなんてやるのかな。」と不思議に思ったけど、よしまささんが、「みんなが走ったりすると、土がやわらかくなって上の温かい温度と下の冷たい温度がまざっておいしいお米ができるんだよ。」

と話してくれました。土と温度が、米づくりには大切なことだということが分かりました。

いよいよ、田んぼに苗を植えました。土手にいる人たちが、苗をどんどん投げてきます。私が

「うわー。」

と声を出したしゅん間、顔にドロがついてしまいました。下の学年の人たちといっしょに楽しく田植えをしていきました。

六月、苗が大きくなったところに、二回目の田車押しをしました。田車押しのコツは、グルグルという音がすると、うまくできるんだと分かりました。田車押しをやって、農業科は大変さが多いほど、後からの喜びも大きいんだなあと思いました。

農業科で学んだことは、協力の大切さです。みんなが、バラバラに行動していると作物みんながおいしく育たないと思います。二つ目は、大変さです。大変さが多いほど、喜びもとても大きいことが分かりました。

これから、農業科の学習を楽しくやっていろいろなことを学んでいこうと思いました。

大根を育てたこと

山都第一小学校 五年 高橋 みらい

私は五年生のみんな大根を育てました。

大根を育てるのは初めてでした。家でも大根を育てているので、私はかんたんにできると思っていました。

大根のたねを畑にまいたのは、八月の二十六日（二学期の初めぐらい）ごろでした。みんなでこうかんしながら畑

を耕していきました。二種類の植え方で育てていきました。まず一種類目は、ぼうで土に線を引いてたねを植え、もう一種類はシャベルであなを開けてたねを二、三個ずつまきました。そのあと、土をかぶせて水をやりました。

何週間かして畑に行くと、大根がちよつとだけ育っていて草がすぐくはえていました。草取りがすぐ大変でした。大根がすぐ大きく育ったのは、何ヶ月か過ぎてでした。その大根をみんなでとりました。すごい大きく育っていたので、びっくりしました。大根を学校に持ち帰り、みんなで洗いました。洗った大根を西昇降口に置きました。みんなで収穫した大根を家に持ち帰って食べました。すぐやわらかくておいしかったです。家族もおいしいと言っていました。

十二月九日、全校生に大根を作ってあげました。先生の分も作りました。みんなも、おいしいと言って全部食べてくれました。自分たちが作った大根を全部食べてもらえたのでうれしかったです。

今度私が作ってみたい野菜は、キャベツです。また野菜をみんなで収穫してそれを料理して全校生に食べてもらいたいです。

私の思う農業科

上三宮小学校 六年 澤田 美月

農業科を始めて二年目。二度やったところで慣れるわけがありません。しかも楽な作業などもあるわけはありません。一つ一つの作業がとても大変でした。昔の人はすごいと思います。これはだれでも思うはずです。けれど、手作

業でいっしょうけんめいやった人だからこそ、分かるかもしれない。

種まきから始まり、葉がついて育ったら田植え。私は農業科の中で田植えが一番好きです。はだしで入った時のかんかくは冷たくて、指と指の間に土が入ってきて不思議なかんかくです。きれいに植えられるとうれしかったです。私は家でも農業をやっています。夏の暑い日も毎日、水の管理をしていました。本当に大変だなと思いました。

そして秋！秋は収かくの秋ということで稲かりです。今年は台風の次の日でかりづらかったです。手は冷たいし、こしは痛くなるし、かっっていくのがいやになりました。けれど稲穂がたくさんついているのに気づきうれしかったです。それを収かく祭で食べた時は、自分で作った米を食べられるなんてすごいなあと感動しました。

私は農業科を体験して、農業をやる人の苦労も大きいけれど、その分自然の恵みも大きいやりがいのある仕事だと思いました。

今、農業をやる人は減ってきています。めんどくさいとか、古いと思うている人もいるのでしょうか？私はやってみると楽しいと思います。もっと多くの人に農業の楽しさ、大切さ、すばらしさを知ってほしいと思います。そして、今のような田畑が広がった緑豊かな地域が残ってほしいと思いました。そして私はこれから、ばあちゃんといじいちゃんの畑を手伝って、野菜を育てていきたいと思っています。

考えがかわった農業の学習

関柴小学校 六年 目黒 栞

今年から私の通う関柴小学校でも農業科の学習が始まりました。私は社会科の学習で農業をする若い人が減りつつあるということを聞いたので、私たちが大きくなって農業をする人が増えるといいなあということで、農業科の学習をするのかなあと考えました。でも、私は農業の体験をしたら、とても大変だからやる人が逆に減るのではないかと考えました。

農業科の学習で私たち六年生と五年生は、もち米の苗をつくることから育てて、収穫したもち米を食べるまでを体験しました。

苗をつくるのは、まだ寒い四月でした。私たちは「プール育苗」という方法で、小さな種モミを土をしきつめた長方形の箱にパラパラとすきまをつくりながらまいて、最後に土を少しかぶせて、土をほって作った小さなプールのようなどころに入れ、水をひたひたになるまで入れて、その上にうすい布やビニールをのせて成長を待ちました。じょうろで何回も往復して水を入れたので、みんなの手は冷たくまっかっかになってしまいました。私は、農家の人たちは、こんな寒い日にも、外で水を使って作業をするなんて大変だなと思いました。私は、農業って大変だしつらそうだから、正直大人になって農業をする気はないなあと思いました。

苗は大きくなり、田植えの時期が来ました。みんな、「ワー」とか「キヤー」とか言いながら楽しんでいました。私もひんやりとしていて気持ちのいい土に足をつっこんで楽しみました。

約四ヵ月間、稲の観察をし、ついに収穫の時期になりました。

した。中がぱんぱんにつまった実をさげている稲は、重そうにこうべをたれていました。収穫をした時、私の農業はつらいしいやだという考えは、つらいけど、大変だけど、収穫したときの喜びはとても大きなもので、農業っていいなという考えに変わってきました。農業科の学習を通して、農業のいいところに気づきました。

二年間の農業学習について

豊川小学校 六年 川村 真由

私は農業科の学習で、米作りは大変なんだとこの二年間を通して分かりました。田んぼをたがやすことが大事だということ、苗を育てる時のポイント、田んぼにまく肥料への工夫などが、一つ一つの稲がおいしくなる秘けつなんだなあと思いました。

周りは田んぼばかりなのに、田んぼについては何も知らなくて、只浦さんが教えてくれることにはいつもおどろきっぱなしでした。農業には、長時間立っていることが多くて、こしがいたくなったりしました。それを毎年毎年やっている只浦さんは、すごいと思いました。

初めて田んぼに入った時は、きもち悪かったけど、慣れると冷たくてももち良かったです。田んぼが金色になるころには、どの田も重そうに稲穂がゆらいでいて、作っている人の愛情が感じられました。そして、私たちの田も、他の田に負けなくらい黄金色に光っていました。稲刈りは、汗ぐっしょりになりながら、みんなと一生けん命刈りました。稲にも心とかあるのかなと思ったりもしました。去年よりも落ち穂も少なく、良くできたと思いました。農業を

教えてくれている時の只浦さんは、すごい一生けん命で米作りに情熱を持っているんだなあと思いました。

私は農業を通して、たくさんの方々の感謝、米を作る人の大切さや、米を作る方々への感謝、米を作る人の大変さとかが改めて分かりました。米を作るのは初めてで分からないこともたくさんありましたが、その分たくさん学べたので良かったです。

只浦さん、二年間本当にありがとうございました。

二年目の農業科

豊川小学校 六年 佐藤 由佳

農業科二年目の四月に私たちは苗箱に種をまきました。成長した苗を田んぼに植え、こぼしや除草、木酢液をまいて稲が根をはりやすくすることを、この半年やってきました。そして十月、私たちは手作業でつくってきた稲を刈りました。

十一月二十六日に稲や田んぼのことを教えて下さった只浦さんをお招きして感謝の会をしました。自分たちが作ったお米は少しあまくてもちもちしていてとてもおいしかったです。

食べ終わったあとのスライドショーで農業科のこれまでの半年の写真が出てきました。

スライドを見ながら私は忘れていたことをたくさん思い出しました。去年は苗があまりよくなく、せっかく育てた苗なのに田植えには使われず今年初めて五、六年生が育てた苗を田んぼに植えることができたこと。その田植えのときに田んぼから足がぬけなくなったり、石をふんだりして

しまったこと。写真が変わるたび、この時は足がぬるつと置いて、どろがつめたかったとか、こしが痛くなったとか、たくさん農業科であったことを思い出しました。黄緑だった苗が緑の立派な稲になっていた時のすごいなあと思ったこと、イオン水や木酢液をみんな「少しくさい」と言いながらも、おいしい米ができるならと、がんばって散布していたこと。今まで忘れていたけれど、これからは忘れないと思います。

田んぼの土の感触や只浦さんに教えてもらったこと、機械で全てできる田んぼの作業ですが、手作業の体験は全部初めてでとても新鮮でした。このことを私は心にきざんで忘れないでおこうと思います。

農業科の活動を通して

熱塩小学校 六年 上野 桂育

ぼくは農業科の活動を通して、変わったことがたくさんあります。その中でも特に変わったことを紹介します。

一つ目は、農業科がとても好きになり、積極的に活動できるようになったことです。前までは、

「うわあ、服が汚れるー。」

などと、あまり積極的ではありませんでしたが、だんだん、

「この作業はとても大切なんだなあ。」

などとおもしろくなってきたので、

「次水やりしてくれる人。」

と言われると、

「はい。」

と、とても積極的になってきました。

二つ目は、家でお手伝いをするようになったことです。

おばあちゃん、畑で野菜を育てているので、

「今日、畑の手伝いに行つていい。」

などと言うようになったことです。夏にはスイカ、きゅうり。トマトなどの収穫をしたり、肥料まきを手伝ったりして、とても楽しい活動でした。

三つ目は、苦手な野菜が食べられるようになったことです。それは、農業科で育てた野菜が、育てた苦労で、二倍にも、三倍にもおいしさが増えるからだと思います。

ぼくたちにとつて農業科は、「食べ物にとっても感謝し」「育て」「食べる楽しさを伝えていく学習だ」と思います。中学でも、田植えや稲かりなどいろいろなことをするので、とても楽しみです。

六年生での農業の思い出

山都第一小学校 六年 中村 巧

去年から始まった、農業の授業はあまりピンときませんでした。服はよごれるし、意味がないと思っていました。しかし、六年生になってジャガイモを作つて失敗した時に、やつと気がついたのです。農業の大切さ、楽しさが。

今年、ぼくたちはジャガイモと小豆を作りました。五月の農業の時間に、先生が種いものメーカーンを持ってきました。さわってみるとやわらかくて、ふにやふにやしていました。ぼくはどのように成長していくか、期待をしていました。六月四日にジャガイモと小豆を植えました。植え方などを田代さんと小澤さんに教えてもらいながら、上

手にできました。二週間たつて葉が出てきました。ぼくは友達と、

「こんなに早く葉が出るんだ。」

などとうれしがりました。七月になり、ジャガイモには白とピンクの花がさき、すぐきれいだなと思いました。夏休みにじいちゃんといっしょに畑の草むしりにきた時、ジャガイモに白い点々ができて、くさっていました。その時じいちゃんが

「ジャガイモはトマトといっしょで雨には弱いから、今年は雨が多かったからだなあ。」

と教えてくれました。ジャガイモは失敗してしまいました。が、学校で先生が植えたジャガイモがあり、そのジャガイモで九月の祖父母学級でポテトチップスを作りました。じいちゃんもおいしいと満足していました。十月に小豆を収穫しました。たくさん量の小豆が獲れてみんな満足していました。

この一年で農業を通して、植物を育てることの難しさや作る人がいるからこそぼく達は食べることができるということを学びました。

同じ方法で育てても、その時の気候や環境に左右され、思い通りにできない大変さも知りました。これから、食事の時は感謝の気持ちを忘れずに食べたいです。

農業から学んだこと

山都第一小学校 六年

後藤 いずみ

「こまめ？」

「違うよ、あずきだよ。」

と友達に言われ、初めて「あずき」と読むことを知りました。たぶん私は農業の授業がなかったら、いまだに「こまめ」と読んでいたでしょう。家で農業はやっていなかったもので、去年農業の授業が始まって、「こんなに農業って楽しいんだ。」と感じました。自分たちで苦労して作った作物を、料理して食べる。この楽しみは、今まで味わったことがありませんでした。

今年作ったのは、小豆とジャガイモです。どちらも元気よく育ってほしいと思いますながら種を植えました。夏休みになり私は友達と一緒に畑の草むしりに行きました。畑にたどりついた瞬間、私と友達は、

「何でかれてるの？」

と、二人で言い合いました。小豆は、黄色いかわいい花をつけていましたが、ジャガイモは、半分以上がしおれていてかれていました。

とても悲しかったです。友達と草むしりをしながら原因を考えましたが、何も思いつきませんでした。家に帰って来て、ジャガイモがかれてしまったことを話しました。そしたら、おばあちゃんが、

「雨が多かったからねえ。」

と言いました。天候の左右で作物の命がなくなってしまうとは。「でも天候だけでそんなにかれるはずがない。」と思いました。農業を仕事にしている人は、こんなに大変なことをしているのかと思いました。私たちが口になっている野菜は、農家の人が手間ひまかけて作っている物なので、と

ても大切に食べなきゃいけないと思いました。

お母さんにマルチがけの事を話したら、

「マルチって何？」

と、お母さんより私の方が知っていることが多かったのです。農業というものがどれだけすごいのかということが実感できてとてもよかったです。

平成 21 年度(第 1 回)喜多方市小学校作文コンクール

【最終審査会審査委員】

福島県会津農林事務所喜多方農業普及所 経営支援課長	長谷川 一朗
J A 会津いいで営農部長	富山 裕治
喜多方市 P T A 連絡協議会会長	神田 敦男
喜多方市立関柴小学校長	松本 敬之
喜多方市小学校農業科支援員 ・喜多方市小学校農業科委員会委員	山田 義人
喜多方市教育委員会学校課長補佐 (喜多方市小学校農業科担当)・指導主事	渡部 裕

編集後記

平成 18 年 5 月に喜多方市小学校農業科の構想がもち上がってから 4 年近くの歳月が流れ、現在では実施校 14 校 1000 余名の子どもたちが取り組む活動となりましたが、これまで小学校農業科の成果についてはあまり明確になっていませんでした。しかし、この作文コンクールに応募した子どもたちの作品が喜多方市小学校農業科の成果を見事に証明してくれました。

原稿用紙の 1 文字 1 文字から見えてくる小学校農業科に取り組む子どもたち姿や、消しゴムで消しては書き消しては書きを繰り返す子どもたちの姿が心に浮かび、胸が熱くなりました。そんな子どもたちの姿を全国のみなさんに知って欲しい、農業のもつ教育的効果を理解して欲しい、そんな思いが日増しに強くなりました。そこで、予定よりも多くの作品を掲載することにしましたが、まだまだ載せ足りないという気持ちと一生懸命書いてくれた子どもたちに申し分がないという気持ちでいっぱいです。

おわりに、この作品集を読んだ方は、「何かほっとした」あるいは「ほのぼのとした」感じがするのではないかと思います。そこで、今回も喜多方市小学校農業科副読本で使用した故石山毬緒先生の挿絵を表紙に使わせていただきました。そして、作品集全体に一層「優しさ」「温かさ」「ぬくもり」等が醸し出され、農業と同じようにこの作品集を手にとったみなさんの心が癒されることを願っています。

平成 21 年度(第 1 回)喜多方市小学校農業科作文コンクール作品集

平成 22 年 3 月 15 日発行

発行者 喜多方市 ・ 喜多方市教育委員会

印刷所 有限会社 五十嵐印刷

